

【主な内容】

- 2… 鼎談=過労死認定裁判で勝利判決
- 6… 青年探偵団⑩国際児童文学館
- 7… 勝手に吹田遺産⑥国際児童文学館
- 8… イラク戦争「神経ガス」使用か?
- 10… 吹田溺愛主義⑤阪田三吉が吹田に
- 12… 戦火に散ったアスリート⑩関関戦
- 13… いわみせいじのヨコシマ日記⑩
- 14… 問題山積み、吹田南部地域



画・高宮良子

JR千里丘駅

マンション建設ラッシュで、今ではJR千里丘駅から千里丘陵を見渡すことができません。ちょっと寂しいですね。

●表紙のことは

JR千里丘駅は摂津市側にあるのだが、吹田市と隣接しているため、多くの吹田市民が利用している。一日の乗客は2万人を越え、各駅しか止まらない駅ではあるが、多くの住民たちに親しまれている駅なのだ。

国鉄千里丘駅が開業したのは、1938年(昭和13年)12月1日。なぜここに駅を置いたのか?そしてなぜ千里丘と命名したのか?…残念ながら当時の資料が存在せず、想像するしかない。

まずなぜこの場所か?当時、岸辺駅は存在せず、吹田駅を出た電車が次に停車するのは茨木駅だった。地図を見ても分かるように、これはかなりの距離である。「ここに停めてくれ」という住民運動があったわけでもなく、国鉄当局が独自判断で駅を開設したと考えられる。

千里丘駅付近の旧来の地名は、吹田側が「大字山田下」、摂津市側が「大字小坪井」。

吹田市側は「旧山田村」だったのだ。もし当時の国鉄上層部が「地名に忠実」なら、「山田駅」か「小坪井駅」になっていただろう。

「千里」という地名が発祥したのは1889年(明治22年)、佐井寺村と片山村が合併し、千里(ちさと)村となったのが始まり。因みに吹田市片山町にある千里第一小学校は、この「千里村」に由来している。千里ニュータウンからかなり離れた地域にあるのに、「千里」という名前がついているのは、そのためである。千里第一小学校が先で、ニュータウンが後なのだ。旧片山村、佐井寺村の背後に広がる広大な丘陵が、いつしか「千里丘陵」と呼ばれるようになった。

駅ができた。今とは違って遠くに千里丘陵が見渡せる。この地は千里の丘への出発点になるではないか。おそろしく当時の国鉄関係者が、そんな思いを馳せて命名したのだから。

やがてその千里丘陵に、東洋一のニュータウンができて、万博が開催された。千里の名前は一躍全国的に有名になり、現在も「千里に住む」ことが一つのステータスになっている。

昨今のマンション建設ラッシュで、緑豊かな千里丘陵が大きく削られてしまった。ノッビルが立ち並び、今では千里丘駅から千里丘陵を望むことはできない。一抹の寂しさを感じるのは私だけだろうか。